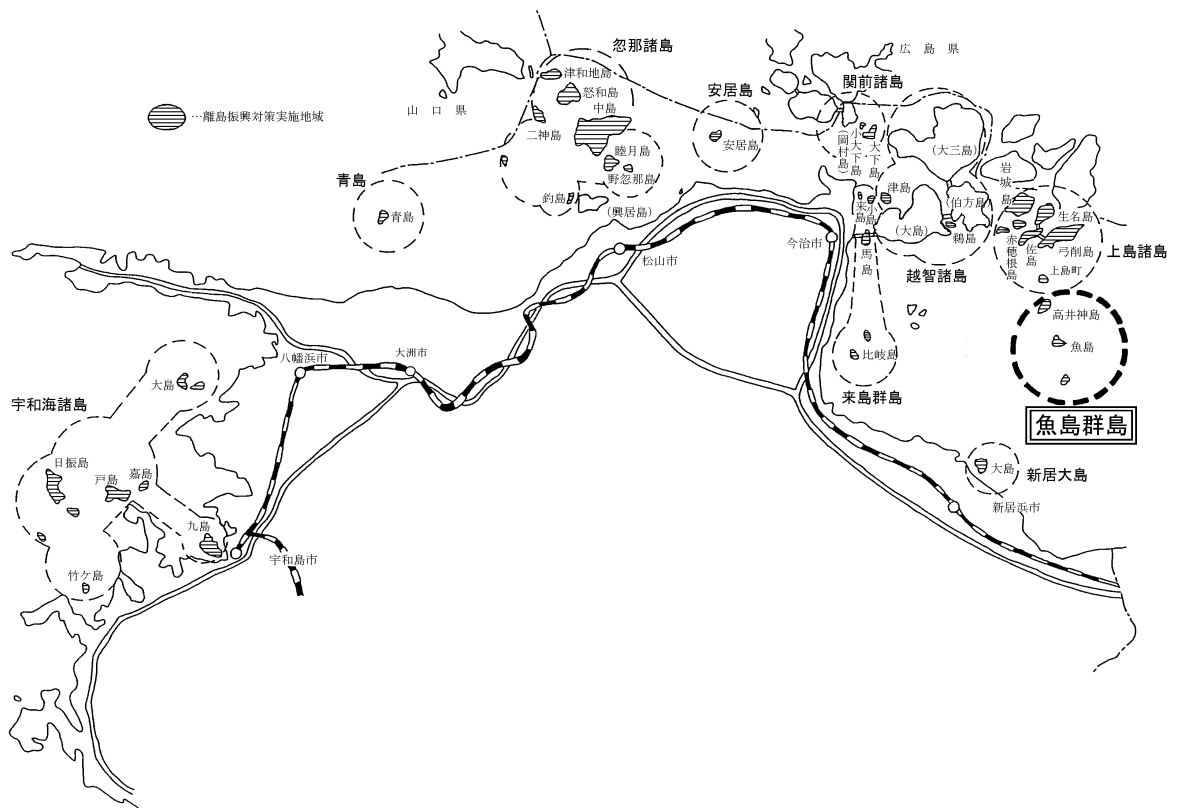


魚島群島地域振興計画



概要

本地域は、瀬戸内海のほぼ中央部に位置する小離島であり、魚島（190人、1.37k㎡）・高井神島（38人、1.34k㎡）の2つの有人島と江ノ島及び付属する3島の無人島から魚島群島を形成している。本土の今治市まで30km、弓削島（上島町）でも13km離れており、隔絶性が強い地域である。

地形は魚島、高井神島ともに平坦地が乏しく、急傾斜地がほとんどで、集落のすべてが島の北側に軒を重ねるように密集している。地質は片状ホルンヘルスト片状花崗閃緑岩に大別され、土壌は砂壤土で腐植質に富んでいる。

気候は、瀬戸内海特有の温暖で多照寡雨で、年間の平均気温15～16℃、年間降雨量1,000mm程度である。

人口は、平成12年では334人であったが、10年後の平成22年では228人であり、31.7%の減少となっている。また、65歳以上の老年人口比率は、平成12年では43.7%であったが、平成22年では41.7%となっている。

なお、本地域は、4町村（弓削町、生名村、岩城村、魚島村）による町村合併を行い、平成16年10月に上島町が発足している。

区分 島名	年齢区分別人口（人）				構成比（%）			
	15歳未満	15～64歳	65歳以上	計	年少人口	生産年齢人口	老年人口	計
高井神島	0	14	24	38	0.0	36.8	63.2	100.0
魚島	16	103	71	190	8.4	54.2	37.4	100.0
計	16	117	95	228	7.0	51.3	41.7	100.0

（平成22年 国勢調査）

1-1 交通の現況

航路については、平成16年6月に建造した「ニューうおしま2」が、魚島～土生（広島県尾道市因島）間を1日4往復しており、旅客のほか郵便物や荷物の輸送にあたっている唯一の生活航路である。

本地域の住民に対して旅客運賃補助等を実施して運賃の低廉化に努めているが、航路の維持存続も含めて課題は多い。さらに、物流についても、島内では賄えない食料品や日用品が数多くあり、本土と比べて輸送コストがかかる状況である。

また、島内道路の多くは、民家の密集地を通過している幅員3m以下の町道であり、整備を進めているものの拡幅改良が課題となっている。

航 路 名	距 離 (Km)	所要時間 (分)	便 数 (回/日)	船 舶 の 種 類
因島(土生)～下弓削～豊島 ～高井神島～魚島	21.1	62	4	快 速 船

1 - 2 情報通信の現況

本地域では、公共施設間の島内光ケーブル網の整備は完了しているが、住民全世帯への光ケーブル網の整備は実現できていない。現在、同軸ケーブルでCATVによるテレビ放送や防災無線による行政情報やコミュニティ情報などの放送サービスを実施しているが、本土との情報通信速度や情報取得・発信の容易さ等の格差を是正するため、対策が必要となっている。

しかしながら、気象条件等によりデジタル放送の電波状況が不安定であり、時折映像が途絶えてしまう。このため、受信点の強化充実を図るなど、放送波の安定供給に有効な方策を実施しているが、課題は多く残っている。

1 - 3 産業の現況

第1次産業である漁業が基幹産業であり、定置網、蛸ツボ漁などの漁船漁業を営んでいるが、漁場の荒廃化により漁獲量が減少している。また、魚価が下がり、安定的な収入を確保できないため、後継者不足の課題を抱えている。

そのため、「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換を図り、魚礁の整備を行うなど、安定した漁獲量の確保に努めている。

区分 島名	産業別就業人口 (人)				構 成 比 (%)			
	第1次	第2次	第3次	計	第1次	第2次	第3次	計
高井神島	5	0	2	7	71.4	0.0	28.6	100.0
魚 島	23	3	61	87	26.4	3.4	70.1	99.9
計	28	3	63	94	29.8	3.2	67.0	100.0

(平成22年 国勢調査)

1 - 4 生活環境の現況

簡易水道については、魚島、高井神島共にそのほとんどが広島県三原市からの購入に頼っていたが、魚島については、平成9年度から供用を開始した海水淡水化施設により水不足が大幅に解消された。しかし、施設更新の時期も迫っており、簡易水道施設の計画的な更新が必要となっている。

汚水処理については、平成4年度に整備したコミュニティ・プラントにより、100%の整備率となっている。また、その処理水は農業用水や防火用水に利用している。

ごみ処理については、週に一回、ごみ収集車が弓削島から高井神島、魚島にフェリー便で向い、収集にあたっている。なお、収集されたごみは、弓削島のクリーンセンターで処理されており、町内におけるごみの集約化が図られている。

公営住宅については、魚島、高井神島ともに整備されているが、将来的なＩターン者やＵターン者を受け入れるためにも、今後も継続的な整備が必要である。

1 - 5 医療の現況

医療については、魚島に国保診療所、高井神島にへき地出張診療所があり、魚島には医師が常駐しており、週1回、高井神島への出張診療を行っている。

救急医療については、上島町消防本部の救急艇により尾道市等の病院へ搬送しているが、多くの搬送時間を費やしており、また、荒天時の対応が十分ではない。

1 - 6 介護サービスの現況

保健福祉センター（龍宮苑）を拠点に高齢者への支援サービスを実施している。また、デイサービスや保健・栄養指導、運動指導などを実施しているが、更なる支援の拡充が必要である。

1 - 7 高齢者の福祉その他の福祉の現況

高齢人口比率は41.7%と高い数字であり、独居・高齢者世帯が増加している。

このため、高齢者の福祉の向上及び増進は、本地域にとって重要な課題となっている。また、公共施設のバリアフリー化についても整備が遅れている。

魚島にある本地域唯一の保育所については、平成23年度に休園していたが、平成24年度には再開している。

1 - 8 教育及び文化の現況

本地域には魚島小学校（8名）があるが、魚島中学校、高井神小中学校は現在、休校中である。魚島中学校については、平成25年度に再開予定ではあるが、このまま過疎高齢化が進むようであれば、将来の学校存続が懸念される。

生涯教育については、壮年会や婦人会などによる活動が積極的に行われており、学習意欲や地域貢献への関心が高い。しかし、公民館や集会所の設備は十分ではなく、更なる整備が必要である。

1 - 9 観光の現況

地理的好条件から周辺海域が好漁場として知られており、釣りを目的にした観光客が多く来島している。休館状態であった島内唯一の宿泊施設である観光センターが平

成 22 年度より再開したことから、今後は更なる観光客受け入れ態勢を整えていく。

1 - 10 国内及び国外の地域との交流に関する現況

広島県福山市在住の写真家 村上 宏治 氏の企画により、平成 23 年度に魚島の小中学生と西アフリカのブルキナファソの小学生がインターネットによるテレビ電話で交流し、互いの国の紹介などを行っている。

また、愛媛大学との連携を図っており、魚島の伝統行事である「てんてこ」や秋祭りの保存活動を行っている。

1 - 11 自然環境の保全及び再生の現況

島民の高齢化に伴い港周辺の清掃が困難になっているため、県の元気な集落づくり応援団マッチング事業などを活用して、地域外からのボランティア活動による清掃活動が行われている。

1 - 12 国土保全及び防災対策の現況

本地域は台風や冬季の季節風による風が強く、波も高いため、浮き防波堤が沈むなどの被害を受けており、漁港整備を推進しているが、未だ十分ではない。

消防体制については、過疎化に伴う団員の減少と高齢化が課題である。特に、休日は若年層が島外に出るため消防体制が整わないことから、高齢者などでも消火活動が行えるような体制づくりが求められている。

1 - 13 人材の確保及び育成の現況

総務省の「地域おこし協力隊」制度を活用して、都市部より地域おこしに携わる人材を募集した。本地域には、平成 24 年度に 1 名の協力隊員を配置し、地域おこしと定住に向けた取組を行っている。

本地域は、隔絶性が特に強い地域であるため、同一町内の上島諸島や今治市及び広島県尾道市などと連携を強化して、生活圈・経済圏の広域化を促進する必要がある。

また、漁業の後継者不足や若年層の人口流出が続くなか、離島航路の維持や生活環境の改善など、住民生活を支える基盤の一層の充実が求められている。

一方で、本地域は離島特有の港景観と集落景観があるとともに、周辺海域が好漁場として知られている。

こうした状況を踏まえ、課題を克服し、特性を活かすことにより、本地域の自立を促進して離島性からの脱却を図るため、「住んでよし 来てよし 元気島」を基本理念とし、次の6つの政策を実施する。

島人は健康人

健やかな身体と心を保つことに努め、快適で健康な暮らしを営む

島人は産業人

地域に根ざした多様な産業を発展させ、安定した働く場を確保する

島人は交流人

町内外の交流活動を活発に展開し、多彩な交流ビジネスを振興する

島人は環境人

恵まれた自然環境を大切に守り、美しい風景と町並みを創り出し、後世に遺す

島人は知恵人

上島町民は、思いやりのある賢い人をめざすとともに、郷土に愛着と誇りを持つ子どもたちを育てる

島人は自治人

自らの町は自らの力で治めるという気概を持ちつつ、互いに助けあい、温かい地域社会を築く

3 - 1 交通施設の整備その他に関する事項

航路については、「ニューうおしま2」の維持存続を図り、島の隔絶性を軽減するため、上島諸島や広島県尾道市因島との連携を強化する。本地域にとって、海上交通は重要なライフラインであり、離島という厳しい立地条件を少しでも緩和するために、費用負担、利便性、そして利用者の動向などを比較・勘案し、効率的なサービスの提供などに努める。また、現在行っている旅客運賃補助を継続するなど移動費用の低廉化に努めるとともに、物流コストの低減も検討していく。

島内交通については、整備が行われていない幅員3m以下の道路について、拡幅・改良整備を実施する。

3 - 2 通信施設の整備その他に関する事項

情報通信速度や情報取得・発信の強化を図るため、地域内の全戸に光ファイバー網を整備する。また、光ファイバーケーブル網の整備とインターネット網による告知放送システムを導入するとともに、情報通信機器を利用する島民のIT能力向上を図る。

また、専門医が不足する離島環境において、本土と変わらない診察が受けられるよう、ICTを活用した遠隔医療のシステム構築を検討する。特に、妊産婦に関しては、本土への通院が大きな負担となっているため、遠隔医療システムによる定期健診の実施を検討する。

テレビ放送については、受信が不安定になるフェージング現象の改善を図るとともに、自主制作番組を向上させ、島民の暮らしに役立つ地域情報等、魅力ある番組を制作・放映するよう努める。

3 - 3 産業振興等に関する事項

第1次産業である漁業の振興を重点的に進め、築いそ・魚礁の設置などの漁場整備を行い、後継者の確保を図る。漁港については、適正な維持管理に努め、施設の長寿命化・延命化を図る。また、稚魚の中間育成と放流を継続的に行い、「つくり育てる漁業」を推進する。

3 - 4 生活環境の整備に関する事項

上水道については、平成9年度から供用を開始している海水淡水化施設の設備更新の時期が迫っており、安定的な上水道の供給を図るために対策を検討する。

汚水処理については、コミュニティ・プラントの維持・管理に努め、生活環境の向上を図る。

ごみ処理については、町内のごみの集約による効率化を図るため、現在のごみ収集車での回収を継続させ、弓削島のクリーンセンターでの処分を推進する。

過疎・高齢化の進行に歯止めをかけ、交流人口・定住人口の拡大を図るためには住宅の整備は必要であることから、今後も公営住宅の維持管理など入居者の住環境の改善を図っていく。

3 - 5 医療の確保等に関する事項

無医地区を作らないため、医療従事者を継続的に確保していく。また、診療所の施設整備及び設備の充実を図る。加えて、地域内で歯科医療が確保できていないため、確保に対する支援を行う。

また、本土と変わらない診察が受けられるよう本地域に光ファイバー網を整備し、ICTを活用した遠隔医療の実現を検討する。また、妊産婦については、現在行っている通院費補助事業（1回あたり5,000円の補助）を充実させ、定期健診などは遠隔医療で実施できる体制づくりを目指す。

救急医療については、上島町消防本部が担っている救急患者搬送機能等の維持と拡充を図る。

3 - 6 介護サービスの確保等に関する事項

独居や高齢者世帯など要援護高齢者を定期的に訪問し、安否確認、生活相談、行政手続等の代行、保健センターや地域包括支援センターの取り次ぎのほか介護保険対象外の方に対する軽易な生活支援を行う。

3 - 7 高齢者の福祉その他の福祉の増進に関する事項

バリアフリー化が実施できていない公共施設などの改善対策を実施し、高齢者が暮らしやすい島の環境の構築を目指す。また、「地域見守りネットワーク事業」等を推進し、お互いに見守り、支え合う地域づくりを実施する。加えて、買い物に行く交通手段がないなど、高齢者を中心とした買い物弱者を対象とする「買い物代行支援サービス」を検討する。

児童福祉について、家族世帯が定住できる環境を推進し、児童を元気に育てられる島づくりを目指す。また、児童の安心安全な保育環境を確保するため、施設の整備を推進する。

3 - 8 教育及び文化の振興に関する事項

学校教育については、児童・生徒数減少に伴う学校存続の危機を回避するため、定住促進策を実施するとともに、全国から留学生（児童・生徒）を募集し、里親のもと

で1年間生活して上島町内の小中学校に通学させる制度の実現を検討する。

生涯教育については、集会所、公民館の施設整備を充実させ、生涯学習ができる機会を増やし、地域活動の推進強化につなげる。

3 - 9 観光の開発に関する事項

唯一の宿泊施設である魚島観光センターの設備を充実させ、受け入れ態勢を整える。また、恵まれた自然環境を活かした観光開発を行い、観光客の増加を目指す。

3 - 10 国内及び国外の地域との交流の促進に関する事項

愛媛大学との連携を継続し、魚島の伝統行事である「てんてこ」や秋祭りの保存活動を実施する。また、平成22年度より実施している高井神島の「高井神島ようこそ祭り」(歌手によるコンサートなど)を継続させるなど、魚島と高井神島の島民の交流機会をできるだけ確保する。

その他、スポーツ振興(卓球)や伝統文化の保存活動(獅子舞)などを通じ、島民同士や他地域との交流の場としての活用を目指した「魚島地域交流施設」を整備する。

3 - 11 自然環境の保全及び再生に関する事項

上島町景観計画の目標である「美しい瀬戸内の島の景観の保全・育成と眺望景観の活用」の方向性に基つき、行政・地域住民・事業所等が連携して、島ならではの優れた景観の保全に取り組んでいく。また、地域の文化・歴史・生活の上に築かれた上島町ならではの景観の形成を目指す。加えて、島民の高齢化に伴い困難になっている港周辺や集落の清掃活動については、地域外のボランティア団体による清掃活動を推進する。

3 - 12 国土保全施設等の整備及び防災対策に関する事項

台風などの災害から島民を守るため、人家や公共施設等の高潮対策等を推進していく。また、南海トラフの巨大地震による津波災害対策を講じる必要があるため、港周辺の整備を進めていく。

消防・防災体制については、消防団員の確保とともに消防施設を充実させ、防災力の強化を図る。また、休日など島外に出る人が多い場合にも非常時の対応が行える消防体制を構築していく。

3 - 13 人材の確保及び育成の現況に関する事項

定住促進事業を推進し、漁業の担い手を確保して定住人口の拡大を図る。

また、地域おこし協力隊制度を活用して、都市住民など地域外の人材を新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図る。